

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】(2階ユニット)

事業所番号	2794100053		
法人名	株式会社 日光ハウジング		
事業所名	グループホームひかり天神橋		
所在地	大阪府大阪市北区長柄西2丁目1番19号		
自己評価作成日	平成28年3月10日	評価結果市町村受理日	平成28年5月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 FGビル大阪 4階		
訪問調査日	平成28年4月8日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>目の前の人・その人の当たり前の生活を当たり前に過ごして頂ける様にサポートさせて頂いています。</p> <p>理念 障がいがあっても、認知症になっても、安心、快適に過ごせる家</p> <p>集団生活の中で、その日やりたい事をやりたい時に、支援ができればと日々各スタッフが協力して一人ひとりの入居者様と向き合い支援させて頂いています。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>鉄筋造合金メッキ鋼板ぶき4階建て、2・3・4階部分に3ユニットを運営しており、既に満室となっている。近くに淀川の堤防や公園及びスーパーがあり、利用者は職員と日常的に河川敷を散歩したり、桜見物や買い物等に出掛けている。認知症介護の経験を22年間積み重ねてきた管理者は開設以来、職員不足等の課題を抱えながらも朝・昼・晩の食事を利用者も出来る範囲で手伝い、職員が交代で手作り料理を提供している事、精神科医との話し合いにより納得して薬を減らしている事、入所以前よりオムツ使用を徹底して減らしている事、入浴時間を定めていない事等、リーダシップを発揮し、利用者への認知症緩和ケアや利用者ごとの個別ケアに関する職員の質向上を地道に図っている。目下、重度化の方に対する初めての対応も職員と話し合い、医師・看護師の協力を得ながら、心温まるケアを実践している。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果(2階ユニット)

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者、職員が意義を踏まえて共有し、同じ方向性に向かい日々実践させて頂いています。	事業所独自の理念を分かり易い場所に掲示し、職員の共有を図っている。三者会議(管理者・ユニットリーダー・ケアマネージャー)で話し合い、職員が実践につなげられるように日々研鑽している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ご家族様同様地域の方からのご理解を頂けるお付き合いをさせて頂いている方々も増え、地域の地蔵盆などにも参加させて頂いたり交流を持たせて頂いている。	町会に加入し、地域の地蔵盆・盆踊り・婦人部会の喫茶サロン等に積極的に参加している。区内の地域包括支援センターと協働し、福祉ネットワーク作りに参加している。傾聴等地域のボランティアを受け入れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域貢献へと繋がる取り組みなども同じ北区内のネットワークの方々と一緒に多くの方々に認知症への理解を深めて頂けるような活動をさせて頂いています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	お家族様、地域包括支援センターの方々から頂いた意見を職員全員で話し合い、参考にさせて頂いています。	家族・町会・地域包括支援センター等に参加を呼びかけ、年6回開催している。単なる報告事項だけでなく参加者と双方向な議論を展開し、運営に活かすように努めている。家族の参加が多く、要望等が述べられている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	常に市町村担当者と連絡を取り合い協力関係を築かせて頂いています。	区福祉課・生活支援課の各担当者と連絡を取り合ったり、区に出向き、助言を得るようにしている。区内グループホーム4ヶ所の会合に参加し、情報の交換をしたり、交流を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	1階の玄関は施錠をさせて頂いているが、その他の施錠は全て解除させて頂き、入居者様が自由に各ユニットを歩き交流もされています。	契約書等に身体拘束は行わないことを明示し、職員の共有を図り、身体拘束をしないよう取り組んでいる。ユニット間は自由に行き来できるが玄関は安全上、施錠している。利用者の外出シグナルには即対応している。	現状身体拘束は行っていないが「身体拘束ゼロの手引き」等のマニュアルを整備し、施設内年間研修計画を作成し、研修を実施し、職員全員の徹底した理解を期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている	何かあるたびに拘束、虐待防止に関しての勉強会などを開いたり、研修会への参加なども行い取り組んでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年に1度外部から講師を招き権利擁護に関する勉強会も開催し、学ぶ機会と活用し支援できる体制を持たせて頂いています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な時間を掛けご説明させて頂きご理解をして頂いた上、契約をさせて頂いています。入居後も何かあればご相談にも応じさせて頂いています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	色々なご意見を頂き運営に反映させて頂ける様な取り組みをさせて頂いています。	家族が毎日訪問される方もいる。家族とは運営推進会議も含め、面談の機会が多く、意見や要望を聞くようにしている。把握した意見は介護記録に記入し、職員皆で話し合うように努めている。事業所の「便り」もスタートし、家族に送付している。	苦情処理簿を整備し、職員皆が利用者・家族から把握した意見等を記入し、そのファイルの積み重ねが事業所の財産となるように期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1度全体会議を開き、運営、体制作りに関与する取り組みをさせて頂いています。	フロアー会議、全体会議を定期的に行い、職員の意見を聞く時間を設け、運営に活かしている。職員は管理者・ユニットリーダー・ケアマネージャーとは日々仕事を通じ、話し合える環境になっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者、管理者が職員がやりがいを持ち、日々業務に取り組めるよう環境整備を整え、職員からの意見も取り入れられるように努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の悩みや、力量などを把握し、そのスタッフに合った研修への参加なども積極的に進める体制と環境に努めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	事業所の枠を超えて、色々なネットワークの繋がりを持ち、交流させて頂き、意見交換などもさせて頂いています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ケアプラン通りにサービスを実施し、その都度カンファレンスを開き見直しをしてご本人に合ったサービスを提供させて頂いています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様の面会時に様子などをお伝えして、家族様の要望などもお伺いさせて頂いているが思うように支援出来ていないと感じている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前にお住まいになっていた環境に近づけるように気配りをさせて頂いています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご自身の出来る事はして頂き、出来ない所をお手伝い出来るように支援させて頂ける様、取り組んではいますが、全スタッフが共有出来ずこれからの課題になっています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	年賀状などを送らせていただいているが、なかなか面会に来られない家族様に対しての関わりが持てていない所も課題だと感じています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	時折、入居者様同士の間でもめ事もありますが、その時々でスタッフが関わり支援出来るようにさせて頂いています。	檀家にあたる方に寺の住職の奥さんや民生委員の仲間及び近隣の知人等が来訪され、懇談している。正月に実家に戻ったり、馴染みの美容室を利用したり、法事に参加したり、今までの関係が継続できるように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お一人居室で過ごされておられる方との関わりの橋渡しが出来るように取り組んでいきたいと思っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	上手く出来ているとは言えず、これからの課題の一つと感じています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時の面談や担当者会議で入居者様の意向を聞き取りしている。 本人からの確認が困難な場合は生活歴からや家族様と相談している。	入所時のアセスメントで過去の生活歴等を把握し、職員間の共有を図っている。入所後も傾聴を大切に、利用者・家族の希望・思いを繰り返し把握し、それに沿った支援を行っている。困難な方には寄り添い、観察することを大切にしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にご本人・家族様・CMより生活歴と現在の状況を聞き取りし、可能であれば自宅での面談により生活環境を確認している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者様が自宅と同じ生活を継続出来るように努めつつ、残存機能を生かせるように取り組んでいる。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	CMとしてモニタリング・アセスメント実施して課題分析し、各スタッフや家族様からの目先での気づき、意見を確認し計画作成に活かすようにしている。	利用者ごとに担当を決め、日々の介護状況を支援経過に記入している。毎月、モニタリングを実施し、現状に合った介護計画作成につなげている。3ヵ月ごとの見直しの前にはカンファレンスをチームで行っている。急変や入退院時には即対応している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	各スタッフが日々の様子を介護記録に記入している。 またケアプランの実施状況を行動実施表に毎日記録するようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ニーズに対してどう対応できるかを考え、可能な限り支援できるよう入居者様、家族様、関係機関、スタッフと相談して取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居者様の生活に必要な地域資源の把握をするとともに開拓している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に提携医療機関について説明し、契約、利用されている。 月2回の訪問診療と必要時オンコールにより、適切な医療を支援している。	現状、家族の希望で月2回、協力医療機関の往診を受けている。眼科・耳鼻科等専門医には家族の協力で通院している方もいる。訪問看護は週2回訪問され、チェックを受けている。歯科医と歯科衛生士が毎週訪問され、必要に応じて治療や口腔ケアを行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週2回看護師による健康管理を実施しており、現状報告、相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には病院関係者へ必要な情報提供を行い、面会時や医療連携室と情報交換を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化、看取りに関する指針を入居契約時に説明している。その後段落に応じて関係者でカンファレンスを行い、ご本人、家族様の意向を確認して看取り介護に取り組んでいる。	看取り対応指針書を整備し、早い段階から家族に説明し、同意を得ている。目下、医師の判断で重度化した利用者の方がおり、医師や職員及び家族の協力を得ながら、事業所として初めての経験であるが看取り対応を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防訓練実施した際に救命救急の講習を受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	4月の消防訓練の際に災害時訓練も兼ねて実施する予定。	昼夜別に防災要綱を作成し、勉強会で職員の共有を図っている。年2回、消防署の指導を仰ぎ、消火避難誘導訓練を実施している。消火設備の整備以外に、延焼が起こり難い耐火構造となっている。備蓄は飲料水は整備しているが食料品等は準備中である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その人その人に合わせた声掛けをさせて頂いています。	プライバシーを損ねる言葉等に気づいた時は管理者や職員同士が注意し合うようにしている。幼児言葉は禁句とし、呼称も基本～さんで対応しているが夫婦2組の方にはその方に合った呼び方を行っている。出来るだけ同性介助を行うようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人様が考えや思いを表現して頂けるよう支援させて頂いています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様に合わせた生活支援をさせて頂き不安を与えないように取り組んでいる。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	髪型等にも要望をお聞きしその人らしい身だしなみをして頂いています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の皮むきや小鉢の盛り付けなども手伝っていただき下膳なども一緒にさせて頂いています。	外部委託業者から献立と食材を調達し、朝昼晩、職員が交代で調理している。利用者は匂いや音を感じながら、出来る範囲で調理・盛り付け・片付け等を手伝っている。外食やイベントで食事レクレーションも組み込み、利用者の楽しみとなっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量などにも配慮し、ご本人の好む飲み物などをお出し、食事なども十分に配慮させて頂いています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご自身でできる方には声掛けにてして頂き、解除が必要な方への支援もさせて頂き、清潔保持に努めさせて頂いています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	布パンツなども活用し、不快な思いをさせない様に支援させて頂いています。	1人ひとりの排泄パターンの把握を徹底し、日中はオムツをしないように、布パンツだけで過ごせるように支援し、入所前より改善した方が多い。便秘薬や睡眠薬は基本、使わず水分補給や散歩を大切に支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ホットミルクやホットタオルなどを活用して便秘にならない様に努めています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ご本人の希望時間に合わせて入浴して頂いています。また日替わりで入浴剤なども使用し香りなども楽しんで頂いています。	入浴は夜8時までは入浴時間を定めず、利用者の希望に沿った時間で支援し、週2回以上の入浴につなげている。意向に合わない利用者には誘導の声かけ等に工夫し、職員との信頼関係を築き、入浴につなげている。ゆず湯等楽しい支援も行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人に合わせて居室やリビングで過ごして頂いています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	副作用なども理解出来るように取り組んでいます。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	公園や買い物へも出かけ、その人に合わせて日中を過ごして頂いています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外食やドライブへも出かけ、その人に合わせて支援させて頂いています。	日常的に桜見物等が出来る近隣の公園や淀川の堤防を散歩コースとしていると共に近隣のスーパーに買い物に出掛けている。現状、車を使ったイベント外出等は行っていないが1階に小規模多機能型居宅介護事業がオープンされれば検討する予定である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物の際、レジなどではご本人にお支払いをして頂いたりもしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば電話なども自由にしたいと思っています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じた飾り物や、個々に合わせたテーブル、イスの配置をさせて頂いています。	居間兼食堂は広く、明るい。畳のコーナーを設置したり、ソファ配置し、利用者が居心地よく過ごせる空間となっている。壁には季節を感じる貼り絵やイベント時の写真等が飾られている。浴室の手すりは利用者が立位し易いように工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	季節に合わせたコタツの設置などの環境によりゆったりと過ごして頂けるようになりました。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前に自宅で使用されていた家具類をそのまま使用させて頂き、使い慣れた思い出の品々を活用することにより、少しでも居心地のいい環境作りが出来、過ごして頂けるように支援させて頂いています。	ロッカーと冷暖房設備が設置済みだが馴染みのタンス・置物・テレビ・仏壇等を持ち込み、壁には手作り品や写真等が飾られている。職員は写真をA4サイズに拡大し、見やすいようにしていると共に今までの家庭と変わらない居室づくりを支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご本人から話をお聞きし、自立した生活を送って頂けるように支援させて頂いています。		